地元企業〝職場のリアル〟子ども20人が体験

碧洋管工で１日職場体験

まず関心持ってもらって

水道管同士をつなぐ作業を実地体験する参加者＝豊田・宮上町の碧洋管工で

豊田市の地元にある中小企業の〝職場のリアル〟を小中学生に知ってもらおうと、「１日職場体験」が昨年12月27日、宮上町の水道工事業「碧洋管工」（宇佐美克幸社長）であり、親子連れ約20人が参加した。【柴田永治】

蛇口をひねれば水が出ることは知っていても、どこから流れてきてどのように守られているかを子どもは知らない。水道事業など町にある身近な仕事を知ってもらい、大人になって職業を選ぶ際に思い出してもらい、町の力になってもらおうというのが狙い。

市産業労働課が、挑戦意欲の高い若者と地域の企業とをつなげることに定評のある岐阜市のNPO法人G－net（南田修司代表理事）とタイアップして始めた人材確保や育成強化プロジェクトの一環で、こうした職場体験会を開くのは今年度が初めて。

碧洋管工は２０１９年５月、県内で初めて高岡配水場（上丘町）で行われた水道本管の流水を利用するマイクロ水力発電の施工を担当しており、そうした先見性から同社が職場体験に選ばれた。マイクロ水力発電は空調大手ダイキンの子会社DKパワー（大阪府吹田市）が開発、全国的に注目を集めている。

子どもたちは水道クイズで、豊田市の水道水が矢作ダムから流れてくる表流水や伏流水を利用していることを宇佐美社長から教えてもらった。屋外では１００年持つ水道本管に絵を描いたりユンボに乗ったりしたほか、水道管同士をどのようにつなぐかを実地体験した。

宇佐美社長は「水道などの建設工事は暑さ寒さや土日曜の休日確保をしにくいことなどから常に人手不足で、うちでも社員15人にあと5人は欲しいところ。こうした催しで仕事を知ってもらえる機会はありがたい」と話した。

イベントを企画した産業労働課の安川綾子担当長は「中学卒業までに職場体験ができるのはせいぜい1、2回。毎朝の通学路で中小企業の社長さんとすれ違っても、仕事の中身を知らないと関心さえ持てない。いますぐでなくても10年後、15年後、『そういえばこんな元気な会社があったな』と思い出してもらえたら」と話していた。

早川支配人は「ゴルフ

もあるゴルフ場からの資

グッズ作成協力に感謝

太啓建設　障害者に記念品贈呈

（左から）大矢社長、作者代表であいさつした山中祐輝さん、須藤理事長＝太啓建設提供

豊田市東梅坪町の総合建設業「太啓建設」（大矢伸明社長）は昨年12月14日、一般社団法人アティックアート（須藤伸枝理事長）と連携して２０１２年から毎年作成しているノベルティーグッズに採用した絵画27点を描いた障害者らに、感謝の気持ちを込めて記念品などを贈った。

同社を中心とした太啓ホールディングスグループの「貴洛」が
東新町のレスト
ェフズキッチン
ル・モトマチ」
授与式には作品
た作者15人を招
のうち12人が出
社長が一人ひと
品などを手渡し
食事会でもてな

大矢社長は
い作品で素敵な
作成することが
から感謝する。
しいグッズを楽
ているお客さま
り、初めて目に
さまは作品の独
観や色使いに驚
に関心を寄せて

春の七草2万6000セット出

県内一の産地松平地

ごとに出荷規格を
田・松平志賀町で

1年の無病息災を願って七草がゆを食べる7日に向け、県内一の産地豊田市松平地区のJAあいち豊田松平営農センターで3、4日、七草セットが昨年同様、計約2万6000セット出荷された。

職員やアルバイ
人が出荷作業に
ベルトコンベヤ
るパックにセリ
などを詰めた。
センター長（52
の品種もおお
よかった」と話

ビタミンやミ
豊富な青菜を取